

各 位

会 社 名 フューチャー株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 金丸 恭文
(コード番号 4722 東証プライム)
問 合 せ 先 ファイナンシャル&アカウンティンググループ
執行役員 松下 恭和
(TEL (03) 5740 - 5724)

2025 年 12 月期第 1 四半期連結業績（累計）のお知らせ

1. 2025 年 12 月期第 1 四半期連結業績（累計）について

当社グループの当第 1 四半期連結会計年度（2025 年 1 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）の連結業績は、

売上高	17,320 百万円（前年同期比 15.3%増）
営業利益	3,335 百万円（前年同期比 2.4%減）
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,997 百万円（前年同期比 8.8%減）

となりました。

当第 1 四半期連結累計期間における経済環境を見ると、ロシア・ウクライナ間の紛争に加え、米国トランプ政権による保護主義的な貿易政策等により世界経済の不確実性は増しております。また、国内の物価及び金利は上昇傾向にあります。

こうした経済環境下でも、企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）による業務改革、生産性の向上による深刻な人手不足への対応、国際情勢を踏まえたBCP（事業継続計画）の観点からの企業全体のサプライチェーンの見直し等、ITを通じた経営改革、業務改善の動きは引き続き旺盛であり、活発なIT投資が続いています。また、生成AIを活用した新たなデジタルサービスの開発、AIを活用した業務効率化の動きが加速しています。

このような状況のもと当社グループは、前期第2四半期から損益を連結した株式会社リヴァンプの業績が当期において通期寄与することから、売上高は前年同期比で増収となった一方、フューチャーアーキテクト株式会社において、「次世代バンキングシステム」、「Future BANK」、政府系の大型公共案件等、複数の大規模プロジェクトの新規獲得に向けた営業活動に注力したことから、営業利益は若干の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は防衛特別法人税の影響を反映したことから減益となりました。

なお、上記記載のとおり、フューチャーアーキテクト株式会社は、当期第2四半期より複数の大型プロジェクトを計画通りに開始することから、上期及び通期の業績予想に変更はございません。

各セグメントの業績（売上高・営業利益）については以下のとおりです。

(1) ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト株式会社（フューチャー株式会社のテクノロジー部門を含む）では、複数の顧客が導入し業務効率化に寄与している、当社開発のAIソリューション「Future Edge AI」が、大手物流企業に導入されました。また、医療機器承認プログラムの開発実績と経験に基づいたSaMD（Software as Medical Device：プログラム医療機器）コンサルティングサービスとして株式会社アイ・ブレインサイエンスと共同開発した日本初の認知症診療支援に用いる検査機器ソフトウェアである「ミレボ®」の販売を開始いたしました。

当社の中長期的な成長に資する、知財を活用した案件については、2行目の「次世代バンキングシステム」導入は下期のリリースに向けて開発・テストフェーズが順調に進捗しているほか、アパレル向け基幹プラットフォームシステム「Future Apparel」導入の大型プロジェクトにおける設計フェーズ、政府が主導する医療DXに関連するシステム構築のプロジェクトも順調に進捗しております。

一方で、「次世代バンキングシステム」、「Future BANK」、政府系の大型公共案件等、複数の大規模プロジェクトの新規獲得に向けた営業活動に注力したことから、前年同期比で売上高は横ばい、営業利益は減益となりました。

なお、複数行の「Future BANK」新規導入、政府系の大型公共案件等、大規模プロジェクトは当期第2四半期から計画通りに開始いたします。

フューチャーインスペース株式会社は、定常的な保守運用サービスに加え、既存顧客のシステム基盤更改及びクラウド移行案件の開発が引き続き好調に推移し、前年同期比で増収増益となりました。

Future One株式会社は、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「Infinite One」の販売において、鉄鋼業など業界特化型の営業展開による新規受注の拡大に加え、付加価値の提案による既存顧客からの受注が拡大し、前年同期比で増収増益となりました。

フューチャーアーティザン株式会社は、DXコンサルティング案件の価値訴求が売上に寄与したものの、プロジェクトの受注が計画を下回ったことに加え、グループ間の事業移管の影響及びソフトウェアの償却負担の増加などから、前年同期比で減収減益となりました。

フューチャーセキュアウェイブ株式会社は、セキュリティサービス案件の順調な進捗に加え、インシデント対応、診断、対策・訓練などの各種セキュリティサービスを組み合わせて顧客に提供したことなどにより利益率が向上し、前年同期比で増収増益となりました。

株式会社リヴァンプは、プライベートエクイティファンドや経営者の実務を支援する経営マーケティング事業及び基幹システム刷新や全社構造改革のコンサルティングを行うDX事業がともに計画を上回りました。加えて、経営マーケティング事業において、支援先の企業価値向上に伴う成功報酬売上を計上しました。同社は前第2四半期連結会計期間から新規に損益を連結しており、当連結会計年度より業績が通期寄与します。

この結果、本セグメントの売上高は 15,535 百万円（前年同期比 19.1%増）、営業利益は 3,558 百万円（同 0.7%増）と増収増益となりました。

(2) ビジネスイノベーション事業

株式会社YOCABITOは、プライベートブランドの強化及びリニューアルの効果により収益性や粗利率は向上しているものの、アウトドア市場での苦戦が続いていることや、ナショナルブランド商品の売上が伸び悩んだことにより、前年同期比で減収、営業赤字となりました。

東京カレンダー株式会社は、コンテンツ事業における広告売上及び「東カレデート」等のネットサービス収入が堅調に推移したことにより、前年同期比で増収増益となりました。

ライブリッツ株式会社は、スポーツチーム向けの会員管理・ECパッケージ「FastBiz」を複数のプロ野球チーム及びプロサッカーチームに導入する案件が計画通りに進捗したものの、新規顧客の案件獲得やスポーツ及び地域における新規事業の立ち上げに時間を要した結果、前年同期比で減収となりましたが、各種コストを抑制したことから増益となりました。

株式会社キュリオシティは、腕時計などの海外ラグジュアリーブランドのストアデザインが順調に進捗しているものの、前年同期に完了したジュエリーブランドの複数の大型ストアデザインが当期はないことから、反動減により減収減益となりました。

この結果、本セグメントの売上高は1,783百万円（前年同期比9.6%減）、営業損失は△118百万円（前年同期は営業損失△38百万円）となり、前年同期比で減収減益となりました。

2. 今後について

(1) グループ戦略について

中長期的な事業環境においては、企業のDXの取組みは今後も続くことが見込まれるほか、深刻な人手不足を補うための抜本的な経営改革による業務効率化、ESG・SDGsなどの経済・社会的な課題への対応の要請もあり、企業の積極的なIT投資は続くものと予想されます。

当社グループとしては、ITを通じて経営改革を進める企業のニーズを的確に捉え、グループシナジーを発揮しながら多面的、積極的に支援することで、多種多様な顧客からの一層高い支持が得られるように努めてまいります。

また、ESG・SDGs関連の取組みにおいても自社の取組みを進めるとともに、環境対応や脱炭素化に向けた顧客の取組みを支援してまいります。

加えて、グループとしての知的財産の有効活用や、M&Aも含めた機動的な戦略投資を行うことで、ビジネスモデルの進化を図り、次期以降の更なる成長へとつなげるとともに、継続的な人材採用、教育、研究開発への投資といった将来の成長に資する事業基盤の整備を進めてまいります。

併せて、グループ内のコミュニケーション強化、品質管理精度の更なる向上等、グループガバナンスの強化を実施してまいります。

各セグメントの特記事項は次のとおりです。

(2) ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト株式会社においては、グループ各社との協業をより一層推進し、経営・ITコンサルティングを通じて顧客の経営課題に伴走して取組む体制を強化しました。これにより、経営改革を図る顧客からのグランドデザイン及びDXの推進を意識した、基幹システム刷新、データ基盤の構築等の新規案件を受注しました。グループ会社との協業を通じて、強固なITセキュリティの構築、顧客企業における高度IT人材の育成・内製化支援など幅広い領域で顧客及び業界の課題解決に取り組みます。

業界の永年の課題解決に資するITソリューションの提供においては、「G l y p h F e e d s」「F u t u r e A p p a r e l」「F u t u r e L O G I」等の当社の知財を活用し顧客価値を最大化するとともに、新たな顧客への提案活動を進めています。「次世代バンキングシステム」については、1行目を安定稼働させた実績を訴求しながら、新規行の獲得に向けて取り組んでまいります。

更に、人材の獲得や教育への投資、品質管理、プロジェクトマネジメントの強化に取り組むことで、これからの時代をリードする体制作りを行ってまいります。

フューチャーインスペース株式会社は、既存顧客のシステム基盤更改及びクラウド移行案件など、複数の大型プロジェクトの開発を安定的に進めるために、開発品質の更なる向上と、人材の採用及び育成を行い、着実に事業を拡大してまいります。

F u t u r e O n e 株式会社は、引き続き、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「I n f i n i O n e」の業界特化型の営業展開により受注を拡大するとともに、製品強化にも努め、製販一体でのトータルソリューションを顧客に提供することで収益の更なる拡大を目指します。

フューチャーアーティザン株式会社は、製造業向けDXコンサルティングと「S m a r t F a c t o r y」構築に加え、基幹システム刷新及び業務改革の支援、サービスの拡充やPLM事業への本格的な参入により製品の企画から製造にわたる一連のサービスを提供し、ビジネスの拡大を狙います。また、E S G マネジメントプラットフォーム「K k u o n (ケークオン)」を軸とした「E S G 経営共創サービス」の貢献、基幹製品である「Y D C S O N A R」のパートナー拡販により、収益の更なる拡大を目指してまいります。

フューチャーセキュアウェイブ株式会社は、危機管理対応とセキュリティ診断サービスはもとより、運用も含めたセキュリティライフサイクルに対応したソリューションを提供します。また、フューチャーグループ各社の既存顧客へセキュリティ専門サービスを提供することで相乗効果を生み出し、収益拡大を目指してまいります。

株式会社リヴァンプは、経営マーケティング事業における既存案件の着実な遂行に加え、DX事業における既存顧客のグローバル展開支援を中心とした案件の拡大を目指すとともに、投資先や海外先進技術企業との協業により新規顧客を開拓していきます。また、引き続き、両事業においてフューチャーグループのリソースとノウハウを最大限に活用し、共同案件の創出、品質の向上など、シナジーの早期実現を図ります。

(3) ビジネスイノベーション事業

株式会社Y O C A B I T O は、新ブランドの立上げを含むプライベートブランドの強化及びリニューアルとナショナルブランド商品の改廃徹底に経営資源を集中し、事業構造の転換と収益性の改善に努めてまいります。

東京カレンダー株式会社は、各種マーケティングデータの分析結果に基づき、月刊誌・WEBメディア・SNS等やイベントなど、ユーザー接点毎にコンテンツの最適化を図り、ブランド力とユーザーエンゲージメントの更なる向上に努めてまいります。また、AI等のテクノロジーを活用し、当社サービスの利便性や業務の生産性を向上させ、各事業の更なる成長と収益拡大を目指してまいります。

ライブリッツ株式会社は、スポーツ分野で培ったデータ分析技術をアマチュア野球チーム向けに提供するサービス「Fastball for Personal」を開始したことに加え、データ分析手法をアナリストが伝える「デジタル野球教室」、最新計測技術を紹介する展示会の開催などのスポーツ振興事業を通じた地域活性化やDX推進に努め、更なる成長と収益拡大を進めてまいります。

株式会社キュリオシティは、プロジェクト規模の大きい高級ホテルやハイエンドレジデンスのインテリアデザインの事業に注力するほか、世界的なブランドのストアデザインを顧客の世界展開に合わせて継続的に受注してまいります。併せて、キュリオシティのデザイン哲学を理解・実践し、グローバルに対応できるデザイナーの採用・育成を進めてまいります。

以上

●本件に関する問い合わせ先：

フューチャー株式会社 ファイナンシャル&アカウンティンググループ 松下恭和

IR 直通 Tel：03-5740-5724 電子メール：ir@future.co.jp